

Ⅱ 農場運営

1 総務事項

1) 人事異動

2014. 8. 1 異動
有働 稯嗣：農場事務係員（前理工学研究科等理学系事務課会計係員）
- 2014.11. 1 異動
新原 豊：学生部学生生活課生活支援係主任（前農場事務係主任）
- 2014.12.31 辞職
有田美和子：農場事務係事務補佐員
2015. 1. 1 新規採用
西 由美：農場事務係事務補佐員
2015. 3.31 退職
佐藤 宗治：農場長（兼任）
茂利 進一：農場事務係事務補佐員（再雇用）
辞職
岩切 洋美：農場事務係事務補佐員（入来牧場）

2) 技術職員研修

農場実習の高度化および充実を図るためには、技術職員の資質向上が不可欠である。農場では技術職員の資質向上を最重要課題と位置づけて、以下のような各種の研修を実施した。

（1）平成26年度国立大学法人鹿児島大学技術系職員合同研修

- 期間 平成26年12月3日
場所 鹿児島大学 稲盛会館
研修者 学内農事部 田浦一成技術職員、学内農事部 濱田延枝技術職員、
唐湊果樹園 川口昭二技術総括、唐湊果樹園 福留弘康技術専門職員、
唐湊果樹園 富永 輝技術職員、唐湊果樹園 鎌田裕子技術職員、
指宿植物試験場 谷村技術総括、指宿植物試験場 勘米良祥多技術職員、
入来牧場 松元里志技術専門職員、入来牧場 廣瀬 潤技術専門職員、
入来牧場 石井大介技術職員

3) 農場施設の利用

農場では、学外・内を問わず広く施設の利用を受け入れている。

（1）学外

（学内農場農事部）

- ・鹿児島大学教育学部附属小学校
時期：平成26年4月16日 139名
内容：田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う。また、生き物の生態について調べると共に生き物採取を行う
- ・鹿児島市立荒田小学校
時期：平成26年4月17日 71名
内容：小学3年生の理科の学習「春のしぜんへとび出そう」において、自然にふれながら虫や植物の観察および採集をするため
- ・鹿児島市立荒田小学校
時期：平成26年4月30日 72名
内容：小学2年生の生活科「春をさがそう」において、身近な自然にふれ、春を感じたり、自然の中からいろいろな発見をしたりして春を楽しむ
- ・鹿児島市立甲南中学校
時期：平成26年5月13～15日 5名
内容：職場体験学習

Ⅱ 農場運営

- ・めぐみ幼稚園

時期：平成26年5月15日 56名

内容：幼児の体験活動のため（・芋の苗の植え方を知る・土の感触を味わう・自然の中でのびのびと遊ぶ）

- ・鹿児島大学教育学部附属小学校

時期：平成26年6月12日 69名

内容：生活科「夏のさんぽ」による農場見学

- ・鹿児島大学教育学部附属小学校

時期：平成26年6月13日 35名

内容：2年生生活科「夏のさんぽ」による農場見学

- ・鹿児島大学教育学部附属小学校

時期：平成26年6月17日 35名

内容：2年生生活科「夏のさんぽ」による農場見学

- ・鹿児島大学教育学部附属小学校

時期：平成26年6月20日 34名

内容：2年生生活科「見て見て 小さな生きもの」による農場見学

- ・鹿児島大学教育学部附属小学校

時期：平成26年6月25日 35名

内容：2年生生活科「見て見て 小さな生きもの」による農場見学

- ・鹿児島市立荒田小学校

時期：平成26年6月30日 72名

内容：生活科「生きものとなかよし」生きものをさがしたりとったりして、見たり調べたりする

- ・鹿児島大学教育学部附属小学校

時期：平成26年7月8日 139名

内容：2年生生活科「見て見て 小さな生きもの」による農場見学

- ・鹿児島市立荒田小学校

時期：平成26年7月17日 68名

内容：生活科の学習で、いろいろな草花や虫探しをするため

- ・鹿児島大学教育学部附属小学校

時期：平成26年7月18日 34名

内容：2年生生活科「見て見て 小さな生きもの」による農場見学

- ・鹿児島大学教育学部附属小学校

時期：平成26年8月27日 38名

内容：2年生生活科「さんぽ」農場見学 田んぼや畑にいる生き物とふれ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う

- ・鹿児島大学教育学部附属小学校

時期：平成26年9月2日 104名

内容：2年生生活科「さんぽ」農場見学 田んぼや畑にいる生き物とふれ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う

- ・めぐみ幼稚園

時期：平成26年10月23日 62名

内容：春に植えたいものを収穫する 秋の自然の中でのびのびと遊ぶ

- ・鹿児島大学教育学部附属中学校

時期：平成26年11月6～7日 4名

内容：職場体験学習

- ・株式会社danken

時期：平成26年11月25日～平成27年3月31日 5名

内容：小麦栽培のため

- ・鹿児島大学教育学部附属小学校

時期：平成26年11月19日 69名

内容：2年生生活科「さんぽ」農場見学 田んぼや畑にいる生き物とふれ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う

- ・鹿児島大学教育学部附属小学校
時期：平成26年11月20日 35名
内容：2年生生活科「さんぽ」農場見学 田んぼや畑にいる生き物とふれ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う
 - ・鹿児島大学教育学部附属小学校
時期：平成26年11月21日 35名
内容：2年生生活科「さんぽ」農場見学 田んぼや畑にいる生き物とふれ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う
 - ・長崎県立諫早農業高等学校
時期：平成26年12月1日 5名
内容：長崎県農業関係高校が組織する農場運営協議会における研修
 - ・鹿児島大学教育学部附属小学校
時期：平成27年2月6日 34名
内容：2年生生活科「さんぽ」農場見学 田んぼや畑にいる生き物とふれ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う
 - ・鹿児島大学教育学部附属小学校
時期：平成27年2月13日 70名
内容：2年生生活科「さんぽ」農場見学 田んぼや畑にいる生き物とふれ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う
 - ・鹿児島大学教育学部附属小学校
時期：平成27年2月16日 35名
内容：2年生生活科「さんぽ」農場見学 田んぼや畑にいる生き物とふれ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う
 - ・鹿児島大学教育学部附属小学校
時期：平成27年3月23日 69名
内容：2年生生活科「さんぽ」農場見学 田んぼや畑にいる生き物とふれ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う
 - ・鹿児島大学教育学部附属小学校
時期：平成27年3月24日 35名
内容：2年生生活科「さんぽ」農場見学 田んぼや畑にいる生き物とふれ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う
 - ・聖母幼稚園
時期：平成27年3月24日 36名
内容：園児の学内散策のため
- (学内農場畜産部)
- ・鹿児島市立八幡小学校
時期：平成27年3月6日 117名
内容：5年生の課外授業の一環として動物飼育棟で飼育している家畜（ウシ、ヤギなど）の見学
- (唐湊果樹園)
- ・韓国の果樹（桃、林檎）就農者
時期：平成26年5月6日 2名
内容：桃、林檎農家の果樹園見学
 - ・社会福祉法人 白鳩会 鹿児島エリア
時期：平成26年8月1日 20名
内容：農林水産省所管の交付金事業の「農」のある暮らしづくり推進事業の一環として鹿児島市内のビルの屋上にミニ農園を設置、農産物を活用するカルチャー教室を開催し、都市部において「農」と触れ合う機会を増やすよう努めています。今回、ミニ農園を利用している施設周辺の都市住民、こども達等と農業を中心に指導している唐湊果樹園を見学し、農業の必要性、公益性など農業の大切さを学習し理解を深めるため
 - ・鹿児島大学教育学部附属幼稚園
時期：平成26年11月6日 75名
内容：唐湊果樹園でのみかん狩り体験を通して、育てている人の話を聞き、食べ物への感謝の気持ちを持って

るようにする。唐湊果樹園の野山の自然に親しむ

- ・鹿児島大学教育学部附属中学校

時期：平成26年11月6～7日 4名

内容：職場体験学習

- ・放送大学鹿児島学習センター

時期：平成26年11月15日 46名

内容：平成26年度第2学期面接授業で「鹿児島の果樹－作る楽しみ」講師：富永茂人教授

- ・紫原幼稚園

時期：平成26年12月12日 46名

内容：園外保育での果樹園見学

- ・社会福祉法人 白鳩会 鹿児島エリア

時期：平成26年12月17日 20名

内容：農林水産省所管の交付金事業の「農」のある暮らしづくり推進事業の一環として鹿児島市内のビルの屋上にミニ農園を設置，農産物を活用するカルチャー教室を開催し，都市部において「農」と触れ合う機会を増やすよう努めています。今回，ミニ農園を利用している施設周辺の都市住民，こども達等と農業を中心に指導している唐湊果樹園を見学し，農業の必要性，公益性など農業の大切さを学習し理解を深めるため

- ・神戸大学大学院農学研究科

時期：平成27年1月18日 2名

内容：唐湊果樹園の見学

(指宿植物試験場)

- ・指宿熱帯果樹研究会

時期：平成26年4月10日 12名

内容：指宿地区の熱帯果樹振興のため協力している「指宿熱帯果樹研究会」の検討会開催のため

- ・中種子町園芸産地確立対策協議会

時期：平成26年5月15日 5名

内容：温熱利用施設の見学とその効果などの解説・オクラの栽培

- ・熱帯果実振興会

時期：平成26年6月14日 10名

内容：地域貢献の一環として協力している「熱帯果実振興会」の会員のため，試験場で栽培している果樹類を視察しながら技術指導，意見交換を行うため

- ・武雄市役所営業部農林課

時期：平成26年7月15日 5名

内容：トロピカルフルーツの栽培指導および施設内の見学

- ・鹿児島県立農業大学校

時期：平成26年7月16日 8名

内容：熱帯果樹類の栽培について現地の見学と，新たな知見を得るため

- ・熱帯果実振興会

時期：平成26年9月13日 10名

内容：地域貢献の一環として協力している「熱帯果実振興会」の現地討論会の開催のため

- ・南日本新聞社編集局報道部

時期：平成26年9月30日 5名

内容：リュウガンに関する記事掲載につき，指宿植物試験場において取材するため

- ・鹿児島県立指宿養護学校

時期：平成26年10月6～17日 1名

内容：平成26年度後期産業現場等における実習

- ・大崎町認定農業者協議会

時期：平成26年10月21日 6名

内容：試験場見学，露地アボガドの見学

- ・月桃アロマテラピースクール

時期：平成26年11月1日 6名

内容：鹿児島県内の芳香業務に携わる方々が，原料となる芳香植物に実際に触れていただくことで今後のよ

り発展的な業務展開につながることを目的とする

- ・南日本放送
時期：平成26年12月19日 2名
内容：MBCラジオキャンペーンCM「守ろう地球環境」の収録のため
- ・鹿児島県立指宿高等学校
時期：平成27年1月20日 42名
内容：郷土の産業・歴史・文化に関する体験的な学習を通して、地域産業の状況や展望を学ぶとともに、郷土への理解を深める
- ・一般財団法人みやざき公園協会
時期：平成27年1月23日 8名
内容：試験場見学のため
- ・鹿児島県立鹿屋農業高等学校
時期：平成27年2月3日 6名
内容：視察研修
- ・九州旅客鉄道株式会社 経営企画部
時期：平成27年2月17日 5名
内容：アボカド栽培の方法について専門的な知見からの先行研究事例を調査するため
- ・ブータン王国 再生可能・発展資源研究センター
時期：平成27年3月4日 2名
内容：施設見学
- ・指宿就農者
時期：平成27年3月14日 10名
内容：指宿地区農業に貢献するため、熱帯果実の特産化を目的として、農家との意見交換および研修を行う
- ・NHK鹿児島
時期：平成27年3月19日 7名
内容：NHK鹿児島放送局80周年記念「鹿児島こころの歌」の撮影のため
- ・指宿熱帯果樹研究会
時期：平成27年3月19日 20名
内容：指宿の熱帯果樹振興のため、指宿熱帯果樹研究会の打合せを行う
- ・南日本放送
時期：平成27年3月24日 3名
内容：「かごしま4」の撮影のため

(入来牧場)

- ・鹿児島市老連南部クラブ (25名)
時期：平成26年6月3日
内容：長寿会研修旅行における牧場見学
- ・(株)九建
時期：平成26年7月17日, 18日, 19日, 21日 (6名)
内容：九州電力走電性鉄塔点検
- ・育児サークル
時期：平成26年7月29日 (35名)
内容：未就学児および幼稚園児による牧場体験
- ・ひまわり
時期：平成26年8月28日 (15名)
内容：幼稚園児および未就学児の牧場体験
- ・(財)鹿児島県環境技術協会
時期：平成26年8月29日 (4名)
内容：施設見学, シカ調査
- ・京都大学
時期：平成26年10月3日 (2名)
内容：施設見学

- ・ベトナム研修生
時期：平成26年10月13日（3名）
内容：施設見学（独立行政法人国際協力機構より委託されている研修の一環として）
- ・欧州獣医学教育認証評価委員
時期：平成26年10月15日（8名）
内容：鹿児島大学所有の牧場の設備や産業動物の飼育状況について見学を行い、日本における畜産業の中核を担う地域の主幹高等教育機関である鹿児島大学で、どのような産業動物がどういった形で飼養されているかについて理解を深めるため
- ・キャトルクリニック Run
時期：平成26年10月7日、22日（4名）
内容：鹿児島県始良家畜保健衛生職員（獣医師）研修
- ・(財)鹿児島県環境技術協会
時期：平成26年10月20日～21日（7名）
内容：研究協定（牧場における野生シカの侵入防止に関する研究）に関するシカの捕獲作業を実施するため
- ・(財)鹿児島県環境技術協会
時期：平成26年10月22日（7名）
内容：研究協定（牧場における野生シカの侵入防止に関する研究）に関するシカの捕獲作業を実施するため
- ・(財)鹿児島県環境技術協会
時期：平成26年10月30日～31日（7名）
内容：研究協定（牧場における野生シカの侵入防止に関する研究）に関するシカの捕獲作業を実施するため
- ・始良市蒲生総合支所・静岡県浜松市・日の丸竹工(有)
時期：平成26年11月11日（4名）
内容：静岡県浜松市が「竹林の再生と新産業の創出」を提案し、先進地の鹿児島県で、畜産分野へのモウソウチク材の粉化による粗飼料化の研究成果と実用化の状況視察のため
- ・(財)鹿児島県環境技術協会
時期：平成26年11月14日（1名）
内容：研究協定（牧場における野生シカの侵入防止に関する研究）に関するシカの捕獲に向けた調査
- ・(財)鹿児島県環境技術協会
時期：平成26年11月26日（1名）
内容：研究協定（牧場における野生シカの侵入防止に関する研究）に関するシカの捕獲に向けた調査
- ・キャトルクリニック Run
時期：平成27年1月4日～3月31日（4名）
内容：繁殖検診・臨床検査・治療など
- ・(財)鹿児島県環境技術協会
時期：平成27年2月18～20日（30名）
内容：研究協定（牧場における野生シカの侵入防止に関する研究）に関するシカの捕獲に向けた調査
- ・松田産業株式会社
時期：平成27年3月18日（1名）
内容：黒毛和種、飼養管理の見学

（2）学内

（学内農場農事部）

- | | |
|--------------|--|
| 4月22日 | 作物生産学講座3年生研究室分けオリエンテーションのため（31名） |
| 4月24日 | 5期開講の農業土壌学実験において、畑地における水の浸透試験を実施する（18名） |
| 5月29日 | 学部改組のための新コースに関する見当を行う（16名） |
| 7月1～12月31日 | 大豆圃場に生息するゴミムシを捕獲するためのPit-fall-trapの定期的な設置および回収（1名） |
| 11月11～12月31日 | 卒業研究で鹿児島大学郡元キャンパスでの種子散布状況をテーマとしており、学内にて主に鳥によって散布されたと思われる植物の調査を行っています。そのため、農場内に散布された植物の調査を行いたいと思います（4名） |
| 11月27日 | 平成28年度学部改組に係わる、新コース（応用植物化学）内容の打合せ（20名） |
| 12月11日 | 教育学部授業「生物学実験1」の土壌小生物観察のため水田土壌を500mlほど採取する（13名） |
| 1月26日 | 作物生産学講座研究室分けオリエンテーションを実施するため（43名） |

2月14日 (唐湊果樹園)	作物生産学講座修・卒論発表会に係わる交流会開催のため(43名)
5月30日	樹木の同定実習を行う(22名)
6月6日	樹木の同定実習を行う(22名)
6月6日	灯火採集による害虫の調査(6名)
(指宿植物試験場)	
4月12日	ヤムイモ、ウコンの定植(8名)
5月3日	タイ研修生と試験場利用者などによる交流会(10名)
6月3日	ヤムイモ圃場の管理(学生実験)(7名)
6月7日	ウコンの定植および組織培養実験(卒業論文のため)(3名)
7月5日	ヤムイモおよびウコンの管理(修士・卒業論文のため)(3名)
8月27～28日	研究セミナーと懇談会を実施するため(理工学研究科 機械工学専攻)(10名)
9月16日	「植物生産学実地研修」の立ち寄り所として(55名)
11月22日	ヤムイモおよびウコン収穫の準備(修士・卒業論文のため)(7名)
11月22～25日	ウコン収穫および収量調査(3名)
11月26～29日	ウコン収穫および収量調査(2名)
11月29～30日	ヤムイモおよびウコン収穫(12名)
12月1日	JICA九州からの依頼により、鹿児島大学教育学部を中心として11月から12月にかけて4週間にわたって実施される「平成26年度地域別研修アフリカ地域教師教育(基礎教育分野(B))」の一環として使用するため(14名)
1月16～17日	卒論研究に使用するヤムイモの選別(1名)
3月21～22日	遺伝資源保存用のヤムイモ消毒と圃場準備(9名)
(入来牧場)	
4月1日	衛生管理・餌作りのため(3名)
4月3日	シカ害防除に関する調査のため(3名)
4月8～9日	牛のルーメン調査、餌おろし、草地整備(7名)
4月9日	平成26年度理学部物理科学科の新入生オリエンテーションで入来牧場内天文観測施設(鹿児島大学1m光赤外線望遠鏡と国立天文台VERA 入来局)見学を行うため(53名)
4月9～11日	筋組織切片の染色のため(1名)
4月10～11日	実験データのまとめ(1名)
4月10～11日	試験打合せ、試験地シバ調査(1名)
4月14日	道具確認、移動(1名)
4月15日	飼料搬入(1名)
4月15～18日	試験地用備品調査、試験打合せ、試験地調査(1名)
4月15～18日	筋組織切片の染色および顕微鏡写真の撮影のため(1名)
4月16日	飼養管理補助、肥育舎周辺片付け(1名)
4月16日	衛生管理のため(4名)
4月17日	RUBマシーン搬入、飼養管理補助(2名)
4月17～18日	飼養管理(1名)
4月22日	竹搬入(12名)
4月24～25日	飼養管理(1名)
4月24～26日, 29日	試験地整備(防鹿ネット設置)、シバ調査(1名)
4月30日	解砕処理(1名)
4月30日	シカ害防除に関する調査のため(1名)
4月30～5月1日	試験地整備(防鹿ネット設置)、飼料搬出、山羊飼養管理(11名)
4月30～5月2日	飼養管理(4名)
5月2日	放牧地の中でフラッグを用いてマダニを採取し、マダニの種類の同定とマダニの生態調査を行う(11名)
5月5～6日	解砕処理、サイレージ調製(2名)
5月6～7日	試験地点検、植生調査(4名)
5月8日	衛生管理、山羊入牧(4名)
5月8日	シカ害防除に関する調査のため(3名)

Ⅱ 農場運営

5月8日	試験地準備, 供試牛の体尺測定, 放牧地整備 (1名)
5月8～9日	飼養管理 (2名)
5月9日	解砕処理 (2名)
5月9～10日	放牧地整備, シバ生育調査 (1名)
5月12日	解砕処理 (2名)
5月13～14日	解砕処理, サイレージ調製 (8名)
5月13～15日	筋組織切片の顕微鏡写真の撮影のため (1名)
5月13～18日	試験地整備, 供試牛入牧, シバ移植 (1名)
5月14～15日	解砕処理, サイレージ調製 (3名)
5月15日	解砕処理, サイレージ調製 (12名)
5月16日	解砕処理 (2名)
5月17日	飼養管理 (3名)
5月19～25日	シバ移植, 供試牛の飼養管理 (1名)
5月21日	竹運搬 (4名)
5月21～23日	飼養管理, 試験地整備 (1名)
5月22日	解砕処理, サイレージ調製 (7名)
5月24日	飼養管理 (1名)
5月26～6月2日	供試牛の飼養管理, シバ生育調査, 試験地柵補修 (1名)
5月27日	飼養管理 (1名)
5月27～30日	飼養管理, 試験地整備 (1名)
5月28～29日	解砕処理, サイレージ調製 (4名)
6月3～9日	飼養管理, シバ調査 (1名)
6月4日	解砕処理, サイレージ調製 (3名)
6月4～5日	飼養管理, 解砕処理, サイレージ調製 (1名)
6月4～6日	飼養管理 (1名)
6月5～6日	飼養管理と半島部試験地の視察 (1名)
6月10～13日	飼養管理, 試験地整備 (1名)
6月10～16日	飼養管理, シバ生育調査 (1名)
6月11日	鳥獣害防除 (3名)
6月12～13日	飼養管理 (1名)
6月14～30日	実験 (1名)
6月17～18日	行動観察 (11名)
6月18～23日	飼養管理, シバ生育調査, 試験地整備 (1名)
6月24～25日	ルーメン液採取, 飼養管理 (1名)
6月24～26日	筋組織切片の顕微鏡写真撮影のため (1名)
6月24～30日	飼養管理, シバ生育調査, 試験地点検・補修, 牛糞サンプリング (1名)
6月26～27日	飼養管理, 電池交換 (1名)
7月1～3日	筋組織切片の顕微鏡写真撮影のため (1名)
7月1～4日	飼養管理 (1名)
7月1～7日	飼養管理, 試験地点検・補修, 調査手伝い, シバ生育調査 (1名)
7月1～31日	実験 (1名)
7月3～7月4日	飼養管理, シカ害防除に関する調査 (1名)
7月12～7月17日	シカ捕獲に向けた事前調査のため (入来牧場におけるシカ害防除に関する研究協定に基づくもの) (7名)
7月13～15日	牛の解体準備の為 (1名)
7月13～17日	牛の解体・飼養管理・餌作り (1名)
7月15～16日	牛の解体作業に参加するため (6名)
7月16～26日	飼養管理・シバ生育調査・供試牛体尺測定・植物現存サンプル採集・実験補助 (1名)
7月18日	シカ侵入頭数の調査 (2名)
7月22～23日	捕獲シカの飼育に向けた準備 (5名)
7月28～30日	捕獲シカの飼育に向けた準備 (20名)
7月29～8月4日	飼養管理・シバ生育調査 (1名)

7月30～8月8日	シカ捕獲に向けた事前調査のため（5名）
7月31～8月9日	捕獲シカの飼育に向けた準備（24名）
8月1～31日	実験（行動観察）（1名）
8月2日	平成26年度理学部物理学科のオープンキャンパスで入来牧場内天文観測施設見学を行うため（鹿児島大学1m光赤外線望遠鏡と国立天文台VERA入来局）（41名）
8月3～5日	牛の解体準備のお手伝いのため（1名）
8月5～6日	牛の解体（11名）
8月7日	放牧地の中でフラッグを用いてマダニを採取し、マダニの種類の同定とマダニの生態調査を行う（15名）
8月7～14日	飼養管理・供試牛体尺測定・植生調査・放牧地整備（1名）
8月11～12日	実験（行動観察）（8名）
8月19～24日	シバ生育調査・試験地整備（1名）
8月21日	捕獲シカの飼育に向けた準備（5名）
8月26～9月5日	シバ生育調査・試験地管理・山羊放牧地整備（1名）
9月1～2日	入来牧場牛肉フェアのため、牛及び食育について学ぶ（9名）
9月1～30日	実験（行動観察）（1名）
9月9～12日	飼養管理・実験補助・放牧地草刈り（1名）
9月10～12日	嗜好試験の準備（1名）
9月16日	嗜好試験の打合せ、準備（1名）
9月18～19日	嗜好試験の打合せ、準備（1名）
9月19～27日	シバ生育調査・試験地整備・試験補助・飼養管理（1名）
9月23日	飼養管理・嗜好試験の準備（1名）
9月27～28日	飼養管理（1名）
10月1～2日	飼養管理、嗜好試験、衛生管理（えさおろし、草地管理）（4名）
10月7日、9日	シバ調査、山羊飼養管理（1名）
10月14日、19日	シバ調査、試験地整備、山羊飼養管理（1名）
10月16日	山羊の管理、山羊放牧地整備（3名）
10月21～25日、28日	シバ生育調査、飼養管理（1名）
11月4日	山羊の管理（3名）
11月14日	シカの捕獲に向けた調査（1名）
11月26日	シカの飼養管理（1名）
11月27日	餌下ろし、山羊衛生管理（2名）
11月28日	シカの飼養管理（1名）
12月1日、4日、9日	シカの飼養管理（1名）
12月11日	衛生管理（1名）
12月12日、15日	シカの飼養管理（1名）
12月18日、25日	シカの飼養管理（1名）
12月22日	大学院の講義の一環として施設見学（5名）
12月22～23日	研究話し合い（1名）
12月25日、28日	シカの飼養管理（1名）
12月30日	シカの飼養管理（1名）
1月3日	シカの飼養管理（1名）
1月6日	シカの飼養管理（1名）
1月8日	餌下ろしのため（2名）
1月9日	シカの飼養管理（1名）
1月12日	シカの飼養管理（1名）
1月13日	入来牧場内に設置されている国立天文台VERA入来観測局へ、理学部専門科目「天体観測実習」の一環として、受講生および指導教員とで、観測設置の見学を行うため（30名）
1月15～16日	ルーメン液採取・行動観察（10名）
1月16日	シカの飼養管理（1名）
1月19日	シカの飼養管理（1名）
1月23日	シカの飼養管理（1名）

Ⅱ 農場運営

1月26日	シカの飼養管理（1名）
1月30日	シカの飼養管理（1名）
2月4～6日	シカの飼養管理，草地での電気柵設置，シカ飼育場の整備（10名）
2月9日	シカの飼養管理（1名）
2月12日	シカの飼養管理（1名）
2月13日	山羊の衛生管理と餌下ろしのため（5名）
2月15日	シカの飼養管理（1名）
2月16日	シカの飼養管理，研究成果報告会（10名）
2月23日	シカの飼養管理（1名）
2月24日	大学院進路希望者見学（2名）
3月2日	シカの飼養管理（1名）
3月5日	シカの飼養管理（1名）
3月9日	シカの飼養管理（1名）
3月9日	餌下ろし（3名）
3月12日	シカの飼養管理（1名）
3月16日	シカの飼養管理（1名）
3月19日	シカの飼養管理（1名）
3月23日	シカの飼養管理（1名）
3月25日	シカの飼養管理（1名）
3月26日	ホイルローダー研修，衛生管理（5名）
3月26～31日	研究，飼養管理（1名）
3月31日	シカの飼養管理（1名）

4）刊行物

鹿児島大学農学部農場年報，第9号（2015.3）

5）行事

4月3，4日	展示即売会および市民農業講座
6月6日	入来牧場牧神祭
7月24日	学内農場農事部お田植え祭
11月14日	唐湊果樹園収穫祭

6）平成26年度全国大学附属農場協議会

（1）春季協議会

日 時：平成26年5月8日～9日
場 所：ホテルフロラシオン青山（東京都）
参加者：佐藤農場長，遠城農場主事

（2）秋季協議会

日 時：平成26年9月4日～5日
場 所：酪農学園大学（北海道江別市）
参加者：佐藤農場長，福留技術専門職員

（3）九州地域協議会及び技術職員教育・研究発表会

日 時：平成26年8月26日～27日
場 所：都城グリーンホテル（都城市）
参加者：佐藤農場長，勘米良技術職員，石井技術職員，濱田技術職員

2 会計事項

1) 予算および決算

平成26年度の農場予算および決算は、第6表のとおりである。予算額119,013,535円に対し、決算額119,113,739円で、100,204円の不足が生じた。

第6表 平成26年度予算および決算

(単位：円)

施設名	当初配分額	追加配分額 および振替額	予算額	決算額	差引過不足額
農場実習経費	0	300,000	300,000	514,728	△214,728
農場実習支援経費	41,607,000	4,606,134	46,213,134	46,129,019	84,115
農場運営経費	51,694,000	18,810,761	70,504,761	70,463,268	41,493
主事	400,000	561,640	961,640	966,819	△5,179
植物部門主任	400,000	43,000	443,000	442,775	225
動物部門主任	396,000	195,000	591,000	597,130	△6,130
合 計	94,497,000	24,516,535	119,013,535	119,113,739	△100,204

2) 機械、設備および備品

本年度は、施設毎の機械、備品を中心に、第7表に示すように総額3,971,376円の予算を充当した。

第7表 平成26年度機械設備等の整備 (50万円以上 予算：自己収入)

機械設備名	メーカー・規格	数量	金額 (円)	施設名
乗用モア	共立 RM981/F	1 台	699,840	唐湊果樹園
ロールベアラー	McHale F5400	1 台	571,536	入来牧場
(総額4,898,880 5年リース)				
マニアスプレッダ	タカキタ LD8800	1 台	2,700,000	入来牧場
合 計			3,971,376	

3) 施設整備

(1) 学内農場農事部

数年前より、作物生産に配慮した輪作体系を組み、田畑輪換も含めた作付け体系を実施している。しかし、元来が排水不良地であるため、畑作時における、湿害の発生がみられた。そこで、平成19年度の実習教育改善経費により、排水不良の2圃場(10号：約800㎡、と11号：約1,570㎡)に暗渠排水を敷設した。今後、輪作体系をみながら、2～3年の年次計画でその他の排水不良圃場にも同様の設備を敷設する予定である。

(2) 唐湊果樹園

果樹園は敷地境界をフェンスで張り巡らせているが、老朽化している箇所がみられることから、更新が必要である。また、敷地境界では、ゴミの投げ込みもみられることから対策もあわせて必要となる。

(3) 指宿植物試験場

ここ数年、施設の加温に利用している温泉量が減少傾向にあるため、一部の温室やハウスでは、従来の温度確保がむずかしくなってきた。一時的な現象かどうかを見極める必要があるが、平成20年度に導入された「省エネルギー型生産技術開発システム」に利用する温泉量も減少しており、今後、湯量の確保に向けた方策が必要になる。

(4) 入来牧場

入来牧場管理棟は、竣工(1968)後、46年を経過し、壁面の亀裂、雨漏り等、老朽化が著しい。平成20年度には、平成19年度から繰り越した農場経費と大学本部経費により、女性用トイレと風呂の新設および職員室の改修を行ったものの、入来牧場管理棟2階部分(宿泊室、講義室)、1階部分(男子トイレ、風呂、食堂)および外壁の改修が課題として残っている。学生、外部利用者および教職員の安全性確保の観点から早急な全面改修が望まれる。

(5) 学内農場畜産部

動物飼育棟は築31年を経過し、雨漏りが頻発していたため、これまで部分的な補修を繰り返してきた。しかし、部分的な補修では改善が見られないことから、平成23年度末に附属演習林から予算借入れを行い、屋根の全面補修を行った。その結果、雨漏りは止まったものの、建物本体の劣化および排水等の問題は依然として残ったままである。

3 各種会議および委員会

1) 農場会議

(1) 委員名簿 (任期2年 2013年4月1日～2015年3月31日)

農場長 (議長)	佐藤 宗治
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
生物生産学科	
作物生産学講座	佐々木 修
園芸生産学講座	富永 茂人
病虫害制御学講座	津田 勝男
家畜生産学講座	岡本 新
農業経営経済学講座	豊 智行
生物資源化学科	大塚 彰
生物環境学科	岩崎 浩一
総務課長	上國料 宏

(2) 会議記録

第1回：平成26年9月2日 (火) 11時00分～12時00分

- 議題 1. 平成25年度附属農場決算 (案) について
2. 平成26年度附属農場予算 (案) について
3. 平成26年度後期農場実習 (案) について
4. 平成26年度後期施設等利用計画 (案) について
5. その他

第2回：平成27年1月7日 (水) 9時00分～9時20分

- 議題 1. 残予算の使途について
2. 農場専任教員の役割分担について
3. 農場関連委員会の委員について
4. その他

第3回：平成27年3月6日 (金) 12時00分～12時20分

- 議題 1. 農場教員の昇任人事について
2. その他

第4回：平成27年3月23日 (月) 10時30分～11時15分

- 議題 1. 平成27年度前期農場実習 (案) について
2. 平成27年度前期施設等利用計画 (案) について
3. その他

2) 農場運営委員会

(1) 委員名簿 (任期2年 2013年4月1日～2015年3月31日)

農場長 (委員長)	佐藤 宗治
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
兼任教員	下田代智英
兼任教員	山本 雅史
兼任教員	高山 耕二
農事部技術総括	野村 哲也
唐湊果樹園技術総括	川口 昭二
指宿植物試験場技術総括	谷村 音樹
入来牧場技術総括	片平 清美
総務課長代理	石踊 保広
農場事務係長	松尾 淳一

(2) 委員会記録

第1回：平成26年7月31日（木）14時30分～16時40分

- 議題 1. 平成25年度附属農場決算（案）について
2. 平成26年度附属農場予算（案）について
3. その他

第2回：平成26年12月18日（木）8時57分～10時05分

- 議題 1. 残予算の使途について
2. 農場教員の役割分担について
3. 農場関連委員会の委員について
4. その他

3) 農場実習教育委員会

(1) 委員名簿

農場長（委員長）	佐藤 宗治
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
生物生産学科	
作物生産学講座	佐々木 修
〃	下田代智英
〃	坂上 潤一
〃	一谷 勝之
園芸生産学講座	富永 茂人
〃	山本 雅史
〃	久保 達也
〃	吉田理一郎
〃	橋本 文雄
〃	清水 圭一
病害虫制御学講座	岩井 久
〃	中村 正幸
〃	津田 勝男
〃	坂巻 祥孝
家畜生産学講座	大久津昌治
〃	三好 和睦
〃	岡本 新
〃	下桐 猛
〃	中西 良孝
〃	高山 耕二
生物環境学科	
環境システム学講座	岩崎 浩一
〃	末吉 武志
自然科学教育研究支援センター	
遺伝子実験施設	田浦 悟

(2) 委員会記録

第1回：平成26年8月29日（金）14時30分～15時05分

- 議題 1. 平成26年度後期農場実習（案）について
2. その他

第2回：平成27年3月4日（水）9時00分～9時30分

- 議題 1. 平成27年度前期農場実習（案）について
2. その他

4) 附属農場施設等利用委員会

(1) 委員名簿

農場主事（委員長）	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
作物生産学講座	一谷 勝之
園芸生産学講座	久保 達也
病虫害制御学講座	坂巻 祥孝
家畜生産学講座	高山 耕二
生物資源化学科	樗木 直也
生物環境学科	岩崎 浩一

(2) 委員会記録

第1回：平成26年8月27日（水）16時00分～16時20分

- 議題 1. 平成26年度後期施設等利用計画（案）について
2. その他

第2回：平成27年3月4日（水）15時00分～15時20分

- 議題 1. 平成27年度前期施設等利用計画（案）について
2. その他

5) 農場研究報告編集委員会

(1) 委員名簿

園芸生産学講座（委員長）	山本 雅史
農場主事	遠城 道雄
作物生産学講座	下田代智英
病虫害制御学講座	津田 勝男
家畜生産学講座	大久津昌治

(2) 委員会記録

第1回：平成26年4月24日（木）13時00分～13時15分

- 議題 1. 校閲から査読制度移行に関する投稿規程案などの検討について
2. 鹿児島大学農学部農場研究報告第37号の原稿募集について
3. その他

6) 農場家畜防疫対策検討委員会

(1) 委員名簿

農場長（委員長）	佐藤 宗治
生物生産学科 家畜生産学講座	大久津昌治
〃	岡本 新
〃	中西 良孝
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
入来牧場技術総括	片平 清美
入来牧場管理獣医師	山口 浩
共同獣医学部	出口栄三郎

(2) 委員会記録

第1回：平成26年7月16日（水）9時00分～9時15分

- 議題 1. 野生シカの捕獲に関して
2. 野生シカへの発信器装置および放獣に関して
3. 野生シカ15頭の飼育に関して

4. 野生シカの栄養状況調査（捕殺，解体）に関して
5. その他

4 入来牧場における牛白血病ウイルス（BLV）清浄化の進捗状況

平成19年10月，入来牧場における飼養牛の BLV 血清抗体価を調査した結果，検査頭数361頭のうち，陽性牛は210頭となり，全体の58%が牛白血病ウイルスに感染していることが判明した。この結果を受け，農場では平成20年1月以降，家畜防疫対策委員会を設置し，入来牧場の牛白血病ウイルス清浄化を，分娩管理および分離飼育の両側面から進めることを決定した。入来牧場では，直ちに清浄化対策を実施し，平成20年5月で陽性率51%，平成20年11月には陽性率は41%，平成23年1月には陽性率36%，平成24年2月には陽性率23%，平成24年12月には陽性率14%と着実に陽性率の低下を実現し，平成19年以降，陽性率は44ポイント低下している。平成25年11月の調査では陽性率17%となっており BLV 陽性率は平成24年度から一定数でコントロールできている状況である。現在，BLV 清浄化は最終段階に入っているものの，陽性牛を集めて出荷までの間飼養している肥育牛舎では，水平感染のリスクもあることから，BLV の完全な清浄化には，まだ期間を要するものと考えられる。今後は，陽性確定牛の出荷を急ぐとともに，引き続き陰性牛の陽転を観察するため，定期的な血液検査を行っていく予定である。